度のものまで様々であるとの報告もある．FTDの脳萎縮の進行速度には個人差があり，発症から受診するまでの時間的差異も認める．脳機能画像検査も利用し，特徴的な臨床症状を見逃さないことが重要である．

4 保育園における運動発達支援 H25年度の報告

稲月まどか

医療法人 白日会 黒川病院

【目的】保育園の年長児に，話を聞けない，落ち着かない，衝動的で攻撃的といった症候がどのくらい存在し，それらが子供の運動能力や這い這いの既往と関係しているかを調査し，H24年度から行っている保育園児に対する保育場面での運動の励行が子供の発達や行動の変容をもたらすのかについて検討した．

【方法】H25年5月4市町村29園583名の年長児に対し，担任記入による行動評価尺度を用いADHD様行動の抽出を試みた．また年長児の足指の動きについて8園143名について調査し，これらの保護者に対し乳児期後期の運動発達についてアンケート調査を行い，年長時点での行動評価尺度得点との関連を検討した．運動プログラム施行後，H26年2月行動評価尺度や足指の動き調査をしてその効果について検討した．

【結果】H25年5月時点でADHDRS-Ⅳと多動性評価尺度のうち一つ以上cut off pointを超えた子供の延べ数は男児39％女児21％（全体の31％）であった．80％の年長児で足指を開いたり重ねたりすることができず，這い這いを十分に経験していない子供も半数に上った．足指の運動能力には性差があり，足指運動能力テスト得点の平均値は有意に女児が高かった．（$P < 0.05$）また足指の運動能力テスト得点と行動評価尺度得点には負の相関があり（$P < 0.01$），這い這いの継続期間が長いほど行動評価尺度得点は低く，年長時の足指の運動能力が高い傾向がみられた．このため体幹をねじる，足指を使って這うなどの運動プログラムを保育の中で励行した．

H26年2月時点で行動評価尺度上cut off pointを超えた子供は男児33％女児13％（全体の24％）と減少した．行動評価尺度得点の平均値は有意に低下し（$P < 0.01$），足指の動き得点平均は有意に上昇した（$P < 0.01$）．また足指の運動能力と行動評価尺度得点との間には有意な負の相関が認められた（$P < 0.01$）．

運動プログラム実施後各担任に行ったアンケートでは子どもの落ち着き，話の聞き取り，運動能力，バランス能力，子供の意欲，自尊心，クラスのまとまりが良くなったと評価された．アンケートの評価得点は運動プログラム実施回数と正の相関をしていた．

【結論】年長児に見られるADHD様症状のうち，運動発達の遅れや経験不足によって生じているものは日常的な運動の励行により改善するものがあると考える．

5 保育園における園児の行動評価について

稲月まどか

医療法人 白日会 黒川病院

【目的】保育園年長児の運動発達支援のため保育園児の行動をさまざまな指標を使って評価する．本年度は子供の心の強さと困難さアンケートを用い，保育園担任と親双方から子供の行動を評価してもらい，それぞれの評価の違いや特性について考察する．

【結果】H26年5月3市町村9保育園138人の年長児について保育園担任からADHDRS Ⅳ，多動性尺度，足指の動きテストについて評価してもらい，子供の乳児期後期の運動形態について保護者にアンケーを行った．子供の心の強さと困難さアンケート（SDQ）は担任・親の双方から記入してもらった．

ADHDRS Ⅳ・多動性尺度いずれかのcut off pointを超えたのは男児58.7％女児22.7％で，足指の動きテストの平均値は男児5.51女児5.93で足指の動きは女児の方が高かった．足指の動きテスト結果と行動評価尺度得点は負の相関があり，